

# 丹沢縦走山行記録

記:鳥切昇治

期 日:2022年3月20日(日) 天候:曇

山 域:丹沢 縦走(大倉～(大倉尾根)～塔ノ岳(1491m)～(表尾根)～三ノ塔  
～(三ノ塔尾根)～大倉)

メンバー:鳥切昇治(81才)単独

## 行動記録

### コースタイム

《往路》自宅 5:03—6:15 大倉(江ノ島、西湘バイパス大磯、二宮経由)

大倉 6:45—7:36 見晴茶屋—(7:45～7:50)—駒止茶屋 8:15—堀山の家 8:35—8:53

堀山戸沢分岐 9:00—花立山荘 9:22—鍋割分岐 9:37—9:52 塔ノ岳 10:05—10:32 新

大日 10:55—鳥尾山 11:44—12:18 三ノ塔 12:27—牛首 13:22—鉄塔 13:50—14:20

大倉

《復路》大倉 14:40—16:33 自宅

新型コロナのオミクロン株による第六波は収まりつつあるが「まん延防止重点措置」の解除は3/21と聞いている。今年も自分の体力を知るトレーニングの一環で丹沢を歩いて来た。大倉～塔ノ岳(1491m)～三ノ塔～大倉のいつものルートを歩いて来た。

自宅から大倉までマイカーで行った。三連休の真ん中の日で大倉バス停前の駐車場は満車だったが、すぐ前の民宿の庭に駐車出来た。(駐車料金 500円/日)

晴の天気予報だったが外れて寒い曇り空の一日だった。登山道は前夜の雨でぬかるみが多く、木道も滑り、歩き難かった。久々の登山だったので無理をせずユックリ歩くことを心掛けた。

三連休の真ん中の日と言う事で登山者やトレランの人達が多く、次々と追い越して行く。寒い中、マイペースで歩く。花立付近から道の脇に淡雪が積もっている。昨夜の雨が雪になって残った様だ。ガスの中、鍋割山への分岐を分け、塔ノ岳山頂に到着。

塔ノ岳山頂はガスで眺望は良くない。

登山者が多く、座って休憩や食事をしている。



塔ノ岳山頂はガスの中、登山者が多い

大倉から塔ノ岳まで3ピッチ、3時間程で登って来た。ゆっくりしたペースで登って来た割には前年、前前年とほぼ同じ時間で登ることが出来た。

寒いので早々に表尾根へ向う。登山道脇の淡雪は此方の方が多いが、木ノ又小屋を過ぎると次第に無くなる。新大日で昼食の大休止。表尾根はトレランの人はいないが、三ノ塔方面から次々に登山者が通り、塔ノ岳の方へ登って行く。

三ノ塔へ向う。昨年、アセビがきれいに咲いていたが、今年はまだ咲いていない。

行者岳から烏尾山間の2ヶ所の鎖場では、三ノ塔方面からくる登山者で渋滞して待つ時間が長かった。



登山道脇の淡雪

烏尾山(1136m)では視界が良くなり相模湾が望めた。塔ノ岳はガスの中で見えない。

三ノ塔の登りにかかった時、左足太もも内側が攣りそうな違和感があったのでアミノバイタルを飲む。その後違和感はなくなった。休まず三ノ塔まで登る。



烏尾山から三ノ塔尾根(中央)と相模湾

三ノ塔から桧・杉林の三ノ塔尾根を下る。花粉症では無いので助かるが薄暗い林の中を黙々と下る。森林伐採用の林道と交差する所で、登山道が分り難い所があった。三ノ塔尾根は登山者が少ない。単独の女性が大きなザックを背負って登って行った。トレーニングなのだろうか...?

自分にはもうあの荷は背負わない...

牛首からは林道に行かず、登山道を登る(入口が分り難い)。三ノ塔尾根の南端にある鉄塔から林の中を下って登山口の舗装された林道に出た。今回も歩き通せるか心配だったが、足が攣ることもなく歩く事が出来た。



三ノ塔頂上の休憩所



牛首まで下って来た

加齢による足の衰え(下りの歩く速度が遅くなった)は仕方が無いことだが、今年もバックカントリースキーと山登りは何とか続けられそうだと感じた一日だった。

風の吊橋を渡って大倉に戻って来た。昨年、大倉バス停付近は桜が満開だったが今年はまだ咲いていない。河津桜が咲き終わってコブシの花がいっぱい咲いている。



風の吊橋を渡って大倉へ

《参考データ》 歩行距離;15.7km 累積標高;上り:1616m/下り:1616m

以上